

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(7/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
東九州メディカルバレー構想特区(大分県、宮崎県)	3.9	4.2 進捗度 ・医療関連機器の市場化件数 208% ・新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可業者数 125% ・新規輸出する医療関連機器を製造する企業 50% ・新規海外医療技術人材育成数 539%	3.5 規制の特例等 ・非治験臨床性能評価制度適用の拡大 財政支援等 ・医療関連機器産業参入促進事業 地域独自の取組 ・大分県医療機器産業参入加速化事業 ・宮崎県産学官共同研究開発補助金 等	4.0	・地域独自の財政金融支援を2県で行い、医療機器開発への参入を促進していることは評価できる。 ・コロナ禍であっても、タイでの医療人材育成を着実に進めていることは評価できる。 ・医療関連機器産業の集積については、これまでの取組で得られた連携体制やノウハウを生かし着実に進んでいることが評価できる。 ・アジア等への医療機器の海外展開が意欲的に実施されている。「見守りシステム」等、新たな取組が実際の展開につながることを期待したい。 ・新規海外医療技術人材育成については、目標値に対する進捗度がきわめて良好と言えるが、進捗度の数値を見ると、初期設定値が低すぎたとは考えられないか。どの時点で、何を持って人材育成を達成したのかということが共有されるのが望ましい。 ・医療機器の輸出については、海外制度やニーズ調査について官学により積極的なサポートが必要だと思われる。 ・市場化件数の目標を着実に達成している背景に、地元の中小企業への支援による実績があると考えられるので、その「見える化」の工夫がなされることを希望する。 ・海外医療技術人材育成に関しては、現地活動や海外人材交流の中止によりオンライン実施のみとなったと思われるため、人数とともに質の評価も検討する必要があるのではないかと。